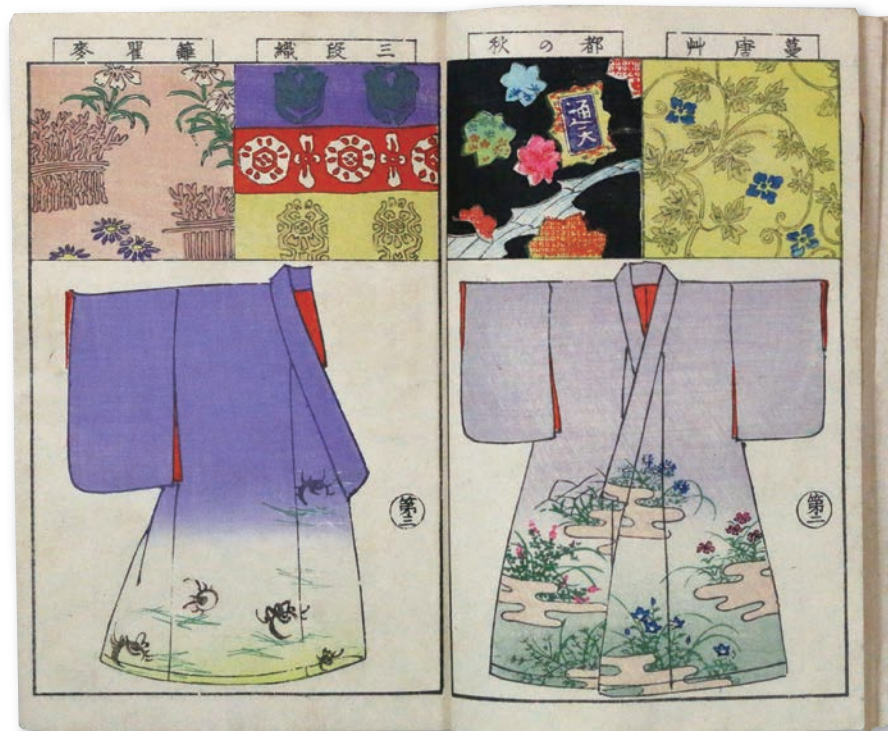


基本情報 ■著者：浅井廣信(生没年不詳) ■年代：明治26年(1893)

■寸法：縦17.4cm 横12.0cm 厚さ1.0cm



版画による彩色豊かな 着物の図案集

『模様美術便覧』について

本資料は、明治26年(1893)に浅井廣信が着物の図柄を彩色版画によってまとめたもので、発行者として山田直三郎、印刷者として鳥居又七が携わっている。

当時の日本では、活版印刷という西洋式の印刷技術が導入され普及していたところであったが、この『模様美術便覧』では版画の手法を採用し、着物の図柄を描いている。また本書には、50種の着物図のほかに100種の模様が1頁につき2種ずつ掲載されており、模様については「蔓唐牡丹」「都の秋」「三段織」「籬瞿麥」というようにひとつひとつ名称が書き添えられている。

さらに、写真には掲載されていないが、とびらには「意匠斬新」と大きく書かれた言葉があり、頁を繰ると鐵齋散人という名と「鉄道人」の落款印(らっかんいん)があることから、これを書き添えた人物は富岡鉄齋であることがわかる。

『模様美術便覧』に携わった人びと

○著者：浅井廣信

本資料の著者である浅井廣信については史料が少なく、その詳細な生涯などを知ることは困難である。

しかし浅井は、『模様美術便覧』のほかに多くの図案画譜を著しており、『京都名所案内記(上下巻)』、『新案模様集』、『京都祇園図

会』、『京都名所図会』、『京都市街名勝案内新圖』、『京都府管内全図』など多くの作品が挙げられる。

○発行者：山田直三郎

発行者である山田直三郎は、明治24年(1891)に田中文求堂より独立し、「山田芸艸堂(うんそうどう)」の名で図案画譜の出版を始めた。なお、この「山田芸艸堂」という屋号は富岡鉄齋による命名である。現在山田芸艸堂は、「美術書出版 株式会社 芸艸堂」の名で日本唯一の木版本出版社として、観賞用木版画および木版本を手掛けている。

○印刷者：鳥居又七

印刷者の鳥居又七については史料が少なく詳しい生涯などは不明であるが、現在の「西湖堂印刷」である「鳥居西湖堂印刷所」を創設した人物であるとされる。

学芸研究員 真柄 侑
実習生 玉虫 麗美

学芸研究員の目



学芸研究員
真柄 侑

写真の右ページにある唐牡丹(唐草)模様は、中国から伝来した蔓草(つるくさ)模様としてとらえられてきましたが、実は文様そのものは、古代オリエントやギリシャなどに起源を持つものです。シルクロードを経て中国を経由する間に、唐代に全盛を迎えた唐草文様と融合して、日本へと伝わったと考えられています。時代を経て、唐草は牡丹や蓮などほかの花々と組合せながら、日本人に愛されるモチーフのひとつとなりました。特に江戸時代後半には、縁起の良い柄として風呂敷の模様に使われることもしばしば。本資料でも、唐草模様はパターンを変えて何度も登場しています。一つの模様が異国からの長い旅路に思いが馳せられます。

この資料のココがすごい!!

50種の着物図と100種の模様すべてに丁寧な色彩。風景画のような着物の模様も細部まで丁寧に描きこまれています。

お気に入りポイント

どのページも色鮮やかで、ファッション雑誌を見ている気分!袖を通してみたくなるデザインばかりです。

参考文献
新潮社辞典編集部『新潮日本人辞典』新潮社 1991
杉原夷山編『日本書画落款印譜集成』柏書房株式会社 2003
並木誠士『すぐわかる日本の伝統模様-名品で楽しむ文様の文化-』東京美術 2007
木版画 版元芸艸堂 Woodblockprint UNSODO
<http://www.hanga.co.jp/> 2017年1月現在

用語解説 詳しくはP26へ

*1 富岡鉄齋